

令和7年度
シラバス

教科・科目	国語・論理国語	単位数	2
-------	---------	-----	---

学年・クラス	2 学年（必修・選択）	担当者	木村 日和
使用教科書	大修館書店 『新編 論理国語』		
使用副教材			

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （１）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- （２）論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- （３）言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

授業の内容・進め方

授業の内容：教科書教材を用いて単元目標に沿った言語活動を実施し、言語能力の項目ごとの向上を図る。

進め方：教科書教材の読解を中心に言語活動を展開し、単元目標の言語能力の向上を図る。

適宜、課題や班活動に取り組むが、板書を中心に説明の理解に注力する時間もある。

なお、ノートは手書き以外の方法で取っても良いが、ICT機器の不適切な使用は認めない。

考 査：授業内の言語活動等を通して学習した国語力の向上を確認する。例えば、文章を要約する力を身につける単元を実施した場合には、課題本文を要約して読むことができるようになっているかを設問において確認する。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観点別達成目標	その場に応じた適切な語彙を判別したり、物事を表現する上で効果的な言葉の使い方を正確に理解し、使いこなしたりするなど、実社会で必要となる国語の基礎・基本的な知識や技能を身に付けている。	「読むこと」を通して論理的・批判的に考える力を伸ばすとともに、物事を創造的に考える力を養い、他者との関わりや、「書くこと」の活動の中で伝え合う力を高め、各領域の学びをもとに自身の思いや考えを広げたり、深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して主体的に他者や社会に関わろうとしている。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価項目	定期考査（年2回）	◎	◎	△
	各単元における提出課題	○	◎	◎
	単元テスト等のまとめ課題	◎	◎	△
	授業中の様子	○	○	◎
	長期休業課題	○	○	◎

・観点別評価 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。

A：十分満足できる

B：おおむね満足できる

C：努力を要する

・評価・評定 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

指導計画及び中単元別評価基準

学期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	4	1 論理と出会う	・論理についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の主張をふまえ、今後の学習に興味をもつ。 ・論理的に考える姿勢を身につけ、論理がなぜ必要なのかを理解する。	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	文章の種類を踏まえた内容や構成、論理の展開等を的確に捉え、論点を明確にしながら文章そのものの要旨を的確に把握している。	筆者の考えを読み取ることに関心を持ち、自らの論理的な思考力を伸ばせるように粘り強く取り組もうとしている。
	5	2 具体と抽象	・具体と抽象との関係について考えを深める。 ・具体例の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。 ・文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 情報をその重要度や抽象度などから階層化して整理することで、分析を深めたり、考えを多角的にしたりする方法について、理解を深めている。	文章の種類を踏まえた内容や構成、論理の展開等を的確に捉え、論点を明確にしながら文章そのものの要旨を的確に把握している。	筆者の考えを読み取ることに関心を持ち、具体と抽象との関係をよりの確に捉えられるように、粘り強く取り組もうとしている。
	6	【投げ込み単元】 〈J MMS 来校に伴う交流単元〉	・具体と抽象の関係から校歌の歌詞の内容について、その言葉の関係図を読み解く。 ・校歌の論理性や文章としての価値について自分なりに論評する文章を作成する。	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	文章の種類を踏まえた内容や構成、論理の展開等を的確に捉え、論点を明確にしながら文章そのものの要旨を的確に把握し、自己の思考に活かし、適切な判断に基づき表現している。	校歌の作詞者の考えを読み取ることに関心を持ち、自らの論理的な思考力を活かし、文章的な知見から校歌について論表できるように粘り強く取り組もうとしている。
	7	3 対比をとらえる	・対比構造について考えを深める。 ・対比構造を意識して本文を読み、論理の展開を的確にとらえる。 ・文章の構成や展開のしかたに注目しながら、筆者の主張を読み取る。	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。	文章の種類を踏まえた内容や構成、論理の展開等を的確に捉え、論点を明確にしながら文章そのものの要旨を的確に把握している。	筆者の考えを読み取ることに関心を持ち、対比構造をよりの確に捉えられるように粘り強く取り組もうとしている。

	8	【投げ込み単元】 〈進路関係－職場体験事前指導〉 〈3単元－考査前の定着度確認〉 ・職場体験に係る志望理由書の作成 ・電話連絡用原稿の作成と練習	・抽象的な目的の達成のために具体的な目標を設定し、相手意識に基づいて適切に説明する。 ・他の行き先との対比を意識し、なぜそこで学びたいのかを的確に表現する。	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 各情報を階層化して整理し、多角的に考えたり、分析を深化させたりしている。	文章の種類を踏まえた内容や構成、論理の展開等を的確に捉え、論点を明確にしながら文章そのものの要旨を的確に把握し、自己の思考に活かし、適切な判断に基づき表現している。	これまでの学習内容を活かし実践することに興味をもち、目的に合わせて適切に文章や口頭で表現できるよう粘り強く取り組もうとしている。
	9	前期期末考査				
	9	4 主張をつかむ	・主張と根拠との関係について考えを深める。 ・筆者の主張と、それを支える根拠の役割について、的確にとらえる。 ・文章の構成や論理の展開について注意しつつ、要旨を把握する。	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	文章の種類を踏まえた内容や構成、論理の展開等を的確に捉え、論点を明確にしながら文章そのものの要旨を的確に把握している。 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	筆者の考えを読み取ることに関心を持ち、主張と根拠との関係をよりの確に捉えられるように、粘り強く取り組もうとしている。
後期	10	5 論理的に書く ※防災週間の実施に伴って、防災や減災に関する論理的な文章を書く。その際、客観性の担保として、調べ学習を充実させることで防災週間の目的の達成を図ることとする。	・根拠を明示しながら論理的に主張を書く。 ・接続表現を適切に使って、論理的な文章を書く。 ・反論を想定し、説得力のある文章を書く。	文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。	情報を吟味し、明確な立場や論点から主張を支える適切な根拠をそろえている。 多面・多角的な視点から根拠や論拠の吟味を重ねて主張を明確にしている。 立場の異なる読み手から批判的に読まれることを想定し、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。	説得力のある文章を書くことに対して興味をもち、反論を想定しながら、適切な根拠を踏まえて自分の主張を展開することができるよう、粘り強く取り組もうとしている。
	11	6 統計資料を活用する	・文章と統計資料との関係について考えを深める。 ・文章と統計資料との関係を的確に読み取る。 ・データのまとめ方によって主張が変わることを理解する。	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。	文章の種類を踏まえながら、各資料と文章の内容との関係を把握し、そのまとめや筆者の主張、論理構造や文章そのものの構成などについての的確に捉えている。	筆者の考えを読み取ることに関心を持ち、文章と資料との関係をよりの確に捉えられるように、粘り強く取り組もうとしている。

12	1	7 比べて読む	・情報を比較したり整理したりする方法について考えを深める。 ・異なる立場から書かれた文章を比べて読み、考えを深める。 ・対比や具体例の役割、根拠などに注意しながら論理の展開を掴むことで、筆者の主張を読み取る。	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 情報をその重要度や抽象度などから階層化して整理することで、分析を深めたり、考えを多角的にしたりする方法について、理解を深めている。	筆者の主張を支えている根拠や結論を導く論拠について批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味しつつ、内容を解釈している。 特定の資料について、様々な観点から、概要などをまとめている。	複数の教材文を読み比べることに興味をもち、情報を的確に比較・整理することができるように、粘り強く取り組もうとしている。 各情報を的確に比較・整理しながら、筆者の考えを読み取れるよう粘り強く取り組もうとしている。
		8 レポートを書く	・実生活の中から具体的にレポートのテーマを決め、問いを立てる。 ・適切な調査方法を検討するとともに、集めた情報をレポートで使えるように整理・分類する。	筆者の主張と、その前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。	実社会や、学術的な学習の基礎に関連する事柄について、書き手の立場や論点など様々な観点で情報を収集したり、整理したりした上で、目的や意図に応じて適切な題材を決めている。	レポートを書くことに興味をもち、集めた情報の適切な整理の仕方を理解できるように粘り強く取り組もうとしている。
	3	後期期末考査				
		※ 8 の続き	・読者を意識して構成や記述に配慮し、全体的に読みやすく、記述内容が理解されやすいレポートを書く。	文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。	情報を吟味し、明確な立場や論点から主張を支える適切な根拠をそろえている。 多面・多角的な視点から根拠や論拠の吟味を重ねて主張を明確にしている。 設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを分かりやすく整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述している。	これまでに学習してきたことをふまえて、自分の主張をより的確にレポートへとまとめることができるように粘り強く取り組もうとしている。